

チャレンジ！！オープンガバナンス 2024 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名(注1)	No.	自治体提示の地域課題名	自治体名
		誰もが安心して暮らし続けられる地域共生社会を実現したい	滋賀県長浜市
チームがつけたアイデア名(公開)(注2)	5link プロジェクト		

チーム名(公開)	5link		
チーム属性(公開)	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生 ドロップダウン選択→		アイテムを選択してください。3
チームメンバー数(公開)	5 名		
代表者(公開)	八島柊花		
メンバー(公開)	氏原桜、落合悠羽、田附希美、安本結衣		

(注1) 地域課題名は、COG2024 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報 下の欄のうち選択肢項目は右のドロップダウンで選んでください

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

＜応募の際のファイル名と送付先＞

1. 応募の際は、ファイル名を COG2024_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、COG2024 のウェブサイトにある【応募フォーム】からアップロードしてください。

＜応募内容の公開＞

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者および公開に同意したメンバー氏名（[メンバー一覧ページ](#)を参照）、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY(表示)4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC(表示—非営利)4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja> および <https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開しません)
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあり得ます。

＜知的所有権等の取扱い＞

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことを確認してください。OKなら右欄の○を選択 →

☐

＜チームメンバー名簿：[メンバー一覧ページ](#)＞

チームメンバーに関する情報を該当ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

アイデアの説明は(1)アイデアの内容(活動)、(2)アイデアの理由(なぜなら)、(3)実現までの流れ、の三項目あります。それぞれ書いてください。必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容(公開)

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、どのような社会的活動（サービス）を行うのかを具体的に示してください。将来実現した場合に、新規性があり、実践したくなり、魅力的でわくわくするようなアイデアを求めます。その結果、課題が解決され、社会に良い変化をもたらすことが期待されます。**2 ページ以内**でご記入ください。

※応募チームとして解決したい課題のポイントを、以下にごく短く書いてください

＜解決したい課題のポイント＞

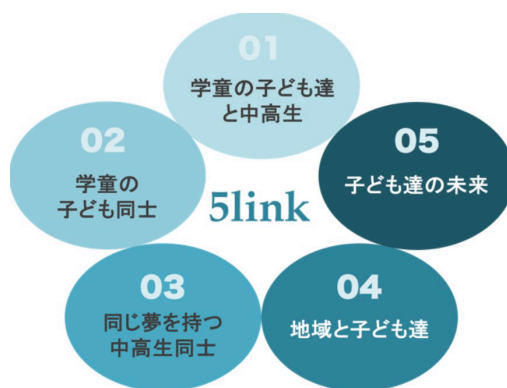
学童に通う子供達のために、様々な経験をする機会やより多くの居場所を作りたい。

※以上の課題解決のために『何』をするアイデアか、それを『だれ』が『だれ』に対して『いつ』『どこで』『どのように』行うのか、受益者自身が主体的に関わる視点も視野に入れてわかりやすく書いてください。アイデアが具体的に実行される場面を想定し、説明をお願いします。

（参考）よいアイデアを生むには関連データの分析に加えてデザイン思考によるアイデアを利用する人への共感（使う人の立場になってみること）が大切です。

＜提案するアイデアの内容＞

私たちは「学童に通う子ども達のために、様々な経験をする機会やより多くの居場所を作りたい」という課題を解決するために「**5link プロジェクト**」という企画を提案します。このプロジェクトの名前である「5link」は、このプロジェクトが①学童の子ども達と中高生②学童の子ども同士③同じ夢を持つ中高生同士④地域と子ども達⑤子ども達の未来 を結びつけるものであることを表しています。



このプロジェクトは、学童に通う子ども達と中高生やおじいちゃん・おばあちゃんなど同じ地域に暮らす人々、そして地域を結びつける交流や体験事業を行うものです。実行の方法として、私たち高校生が学童に通う子ども達に魅力的だと思ってもらえるような体験活動を活動メニューとして提示し、季節やニーズに合ったアクティビティを学童の職員の方に選んでいただくという形式を提案します。つまり、飲食店のメニューに書いてある料理を注文するように、その学童で行いたいアクティビティを行いたいタイミングで活動メニューの中から選んで私たちに注文していただき、それを私たちが準備・実行するという事です。この活動の参加現在考えている具体的な活動メニューの内容の例を三つ紹介します。

① 1年間を通した農業体験

ピアノやスイミングなど、比較的多くの子どもがしている習い事に比べて、農業の体験はあまり身近ではなく、新鮮な気持ちで子ども達が体験できるのではないかと思います。地元で農業をされている方や中高生スタッフとともに活動することで新しい経験をしながら、異世代間交流もすることができます。また、1年間をかけて収穫までを行うので、継続して同じメンバーで交流することができ、その中で学童の子ども達は中高生、地域の人と仲を深めることができるため、子ども達の居場所づくりにもなります。この企画は「5link」の①、②、④に深く関わっています。

② 地域の伝統的な文化の伝承の機会を作る

長浜市には多くのお祭りや地域独自の行事があります。それらを通して地元・長浜の文化に触れる機会を作ることができないかと思い企画しました。例えば、長浜の伝統的なお祭りである「長浜曳山まつり」では「子ども歌舞伎」の奉納や「シャギリ」と呼ばれる囃子の演奏が行われます。これらを、実際には曳山まつりに出演しない子ども達も体験できるような機会があれば、子ども達にとっては普段はあまり触れることのない、自分の地元とその文化について知ることができます。また、これは長浜の町おこしにも繋がるのではないかと考えています。この企画は「5link」

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

の②、④、⑤に深く関わっています。

③ 長期休みに開催！ 中高生によるミニ塾

学童に通う子ども達は長期休みには一日を学童で過ごします。長期休みには普段より量も種類も多く、難易度の高い宿題が出されます。そこで、地元の中高生が希望のあった学童を訪れ、小学生からの学習内容についての質問を受け付けたり、小学生1人では取り組むのが難しい宿題の手伝いやアドバイスをしたりできる場を作れないかと思い企画しました。小学生が各自の宿題や他のやるべきことを進められるのはもちろん、特に質問に来る子どもがいないときは中高生も自分自身の課題をして良い、などのルールにすれば、中高生側にとっても参加するメリットになると思います。また、小学生から質問をされたら、難しい内容を噛み砕いて分かりやすく教える必要があるので、将来小学校や中学校の先生になりたい、と考えている中高生にとっては将来にも繋がる経験ができるのではないかと思います。これは「5link」の①、③、⑤に深く関わっています。



▲実際の活動を想定して作った活動メニューの例

この他にもハロウィンやクリスマスなど季節ごとのイベントに合わせた企画や、学童の子ども達からリクエストのあった企画、2つ以上の学童が合同で交流を行う活動など様々なアクティビティを考えています。

また、これらの活動に協力してもらおう中高生や地域の方にとっても参加するメリットがあるようにするために、参加回数に応じてQUOカードや商品券などをプレゼントできたら良いなと考えています。

現在は学童の子ども達に参加してもらおうことを考えて企画をしています。ゆくゆくは学童だけでなく自治体や地元の子ども会など、学童の子どもだけでなく、長浜に暮らす全ての子どもを対象とした活動に拡大し、体験の機会を作っていくつもりです。

(2) アイデアの理由（公開）

次にアイデアを提案する理由(なぜ)について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

※このアイデアを提案する理由(なぜ)を書いていきます。

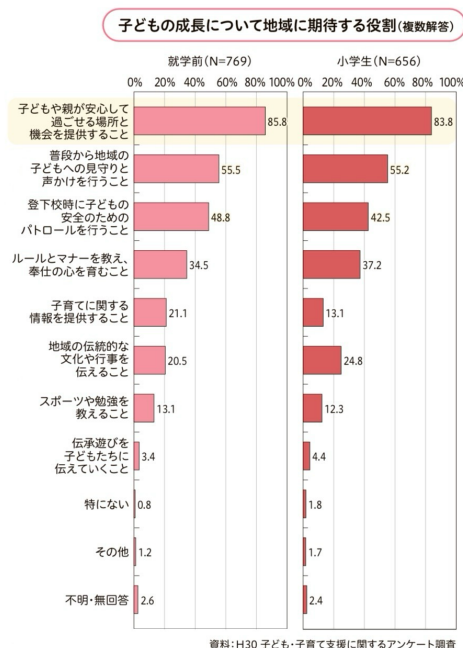
※先に書いた『何を』『だれが』『だれに対して』『いつ』『どこで』『どのように』というアイデアの内容を支えるために、『なぜ』このアイデアが有効で、実現する意味があるのか』を、上記のデータを使ってわかりやすく説明します。

＜参考：以下のように理由を書いていきます＞

※根拠：このアイデアがなぜ必要であるか、またはなぜ有効だと考えるのか、その筋道を説明します。

※裏付け：その根拠を支えるために、統計データや報告書、事例などを使って補強します。さらに具体的なアイデアの効果についても、何らかのデータを使うと説得力が増すでしょう。（定性データを含めて歓迎）

1. 長浜市の活性化・子ども達の未来につながる

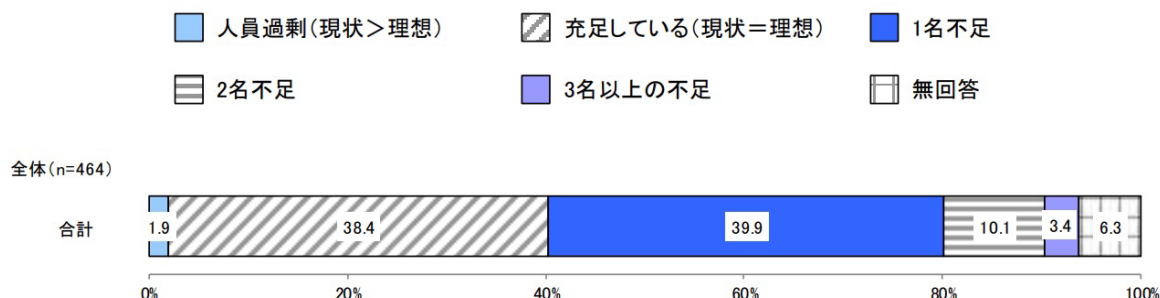


出典：第2期長浜市子ども・子育て支援事業計画

上のグラフは、長浜市で子育てをする保護者の方に、「子どもの成長について地域に期待する役割」についてアンケートを行った結果です。このグラフから、地域に「子どもや親が安心して過ごせる場所と機会を継続すること」を求める子育て世代の方が最も多いということが分かります。また、「地域の伝統的な文化や行事を伝えること」「スポーツや勉強を教えること」を地域に望んでいる方もいらっしゃるということが分かります。このことから、中高生が児童のやりたいスポーツと一緒にしたり、宿題を手伝ったりするだけでなく、地域との結びつきを強めることもできる「5link プロジェクト」は地元の子育て世代の方にとって需要のあるものだといえます。また、子育てをする方が望む子育てをしやすい環境を作ることができれば長浜市で子育てをすることを選択する方が増え、少子高齢化を食い止めることにもなり、長浜市の活性化につながるのではないかと考えています。児童側にとっても地元の文化に触れることは新鮮な体験であり、自分の住む地域について知る良い機会になると考えられます。

2.学童の放課後児童支援員の人手不足・高齢化問題の解決

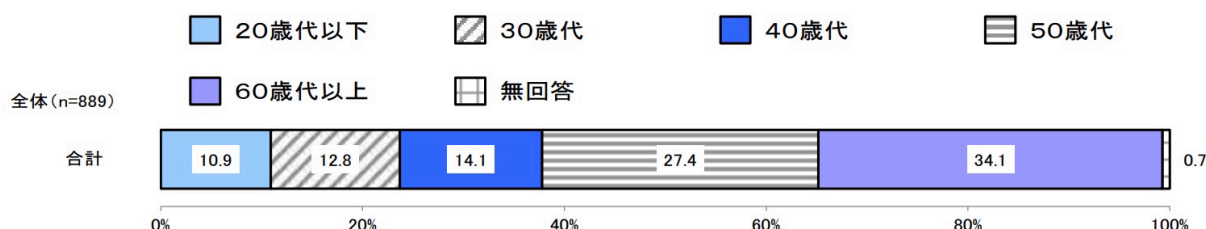
【図 5-2-2 放課後児童支援員の過不足状況】



出典: 令和3年度滋賀県放課後児童クラブ実態調査報告書

上のグラフより、現在の放課後児童支援員（放課後児童支援員の資格を持っている人）が「1名不足」という回答が最も多く、「充足している」の割合は半分に満たないということが分かります。

【図 1-1 年代】



出典: 令和3年度滋賀県放課後児童クラブ実態調査報告書

また、上のグラフより、放課後児童支援員として働く人の年代で最も大きな割合を占めているのは「60歳代以上」で、その次に「50歳代」が続いているということが分かります。

以上の2つのグラフから、滋賀県の放課後児童クラブでは放課後児童支援員の人手不足と高齢化の問題があるということがいえます。支援員が足りていないと子ども達全員に目が届かなくなり、その結果事故などにつながる危険性があります。また、支援員の高齢化が進むと一緒に動きの激しい遊びをしたり、元気のある小学生たちの相手が体力的に困難になったりする可能性があります。

そこで、地元の中高生が「5link プロジェクト」の一環として放課後児童クラブを訪れ、小学生に宿題を教えたり、一緒に遊んだりすることで、支援員だけでは足りていなかった子供を見る人手を増やすことができます。小学生にとっても体力があり、より年齢の近い中高生と遊べるようになることで、できることの幅が広がるのではないかと考えています。また、将来教員になりたい、子供に関わる仕事がしたいと考えている中高生にとっても、小学生に何かを教えたり、一緒に活動をしたりするというのは将来につながる良い経験になるのではないかと考えています。

実際に夏休みに市内の公営の放課後児童クラブを訪れ、職員の方に私たちの考える企画についてどう思うかインタビューをしたところ、「学生ボランティアが来てくれるのは助かる」とおっしゃってくださいました。

(3) アイデア実現までの流れ(公開)

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策を含め、アイデア実現までの大まかな流れについて、**2ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

※アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきます

＜以下のように分けて書いていきます＞

1. **実現する主体**
2. **実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)**の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

1. 実現する主体

「**Five Link Studio**」という会社を作り、この会社を中心として活動します。

2. 実現に必要な資源

●ヒト

私たちメンバー5人が中心となって企画・実行までを行います。

私たちでは教えることや準備が不可能な体験活動の場合はその都度外部の方に依頼をします。

また、各活動ごとに参加を希望する中高生や地元の方を募ります。

●モノ

各小学校にある放課後児童クラブや民営の放課後児童クラブの建物で実行可能な活動は、その場所をお借りして活動を行います。学童の建物で行えない農業体験などの活動はその都度地元の方から土地をお借りしたり、公共の施設をお借りしたりする予定をしています。また、活動に必要な資源は消耗品や個人で買えるものは私たちが活動に合わせて購入します。個人では購入が難しいものや一回限りの特別なものは所有しておられる方にお借りする予定をしています。

●カネ

活動メニューのアクティビティの一部を有料にして、参加費として参加者から徴収することで資金を確保します。また、それだけでは運営費を賄えない可能性が高いため、私たちの活動に賛同してくださる地域企業や自治体からの助成金、スポンサーシップを確保します。

3. 実現に至るまでのプロセス

- ① 半年ほどで、活動メニューの内容をより詳しく、充実したものにする。
外部の協力が必要な企画は、協力していただきたい企業や団体に向けあって実現可能かを確かめる。
↓
- ② 半年から1年ほどで上記の方法で活動資金を集める。
↓
- ③ ①がまとまったら、市内の学童に「5link プロジェクト」を宣伝し、賛同していただいた学童にこのプロジェクトに参加していただく。
↓
- ④ 1年後を目安にプロジェクトを実行する。プロジェクト実行後は、参加して下さった学童に参加した活動についてのアンケートに答えていただき、その結果をもとに企画をブラッシュアップしていく。